

HKFA Technical Report 2019

2019地域トレーニングキャンプU-17（北海道）

日時
2019年11月5日（火）
～11月7日（木）

会場
SSAP
東雁来公園サッカー場 他

スタッフ
ナショナルトレセンコーチ
山橋 貴史
秋葉 忠宏
阿部 勝弘

北海道トレセンコーチ
岡田 慎司
蟻川 将寛
本村 俊三
國井 康之

トレーナー
小池 敦

1 事業の概要

2019年度の公式戦を見た中で、ナショナルトレセンコーチと北海道トレセンスタッフで選考をした選手24名を集め、2泊3日のトレーニングキャンプを行った。

修学旅行などの学校行事と重なり参加できないチームもあったが、多くのチームが選手派遣に協力いただき、無事開催することができた。

今回は、U-20日本代表コーチでポーランドでの世界大会を経験した秋葉忠宏コーチが初日に参加し、トレーニングとレクチャーを行った。また、札幌創成高校、コンサドーレ札幌U18との練習ゲームを行いハードなスケジュールではあったが選手には多くの刺激があった。

2 活動内容

1日目（AM）トレーニング

W-up アイスブレイク、MP、1v1（ラインゴール）

TR1 3vs3+GK（ペナルティエリア内での攻防）

TR2 (1) 3vs3+2S+2GK（縦50m、横13m）

DF背後へのアクションを起こさせ突破を狙う
サイドにいるサーバーを使いながら3人目の関わりなども促す
シュートを決めることを意識させる

TR2 (2) 3v3+2S+F+3v3+2S+F+GK（縦50m、横68m）

3v3で攻防しながらサイドのサーバーを使って攻撃を仕掛ける
守備側はサイドのサーバーへも守備に行ける
フリーマンはどちらのコートにも関わって行ける

Game 11vs11（フルピッチの4分の1）



1日目 (PM) 練習試合17:30K/O

vs札幌創成高校 (40分×2)

3—1 (1—0 2—1)

前半

GK 松下⇒高島

DF三浦、菊池、近藤、長代

MF村口、河合、宮川、山田

FW福士、岩井(一)

後半

GK杉田⇒村中

DF武藤、橋本、梅田、打矢

MF岩井(雄)、横山、会津、川崎

FW安藤、河合 (福士)

前半は選手同士の距離感が悪く攻守に主導権を握れなかった。相手の1—4—1—4—1のシステムに対してミスマッチをどのように制限をかけて奪うかが共有できずに崩される場面があった。ビルドアップでもSDFが高い位置に入りすぎてCDFの選択肢がなくなり、相手の前線からの守備にボールを運べない時間が多くなった。

その後は、徐々に距離感が修正され攻守の切り替えが早くなり、連動した攻撃と守備ができるようになった。後半は試合を見てプレーできたことと相手の運動量が落ちたこともあり主導権を握って得点を重ね、勝つことができた。

2日目 (AM) トレーニング

W-up MP パス&コントロール

TR1 2vs2+GK (縦40m、横18m)

攻撃側はペナルティエリアに入るまでは両方のゴールに行ける

守備は両方のゴールを守る

TR2 5vs5+GK (縦52.5m、横40m)

ゲームの中でDF背後へのアクションを起こし突破を狙う

攻守の切り替えを早くする

2日目 (PM) 練習試合19:30K/O

vs北海道コンサドーレ札幌U-18

(40分×2)

2—3 (1—1、1—2)

前半

GK松下、高島

DF武藤、菊池、近藤、打矢

MF岩井(雄)、会津、河合、川崎

FW安藤、岩井(一)

後半

GK杉田、村中

DF三浦、梅田、橋本、長代

MF村口、宮川、横山、山田

FW福士、安藤 (岩井(一))

前半から積極的なプレーを見せてくれた。前日の修正点を選手が理解しており、距離感がよく、攻守に連動したプレーが多くあった。中盤の高い位置にブロックを作り、奪いに行くタイミングを合わせてボールを奪い、カウンターとポゼッションを使い分けて攻撃を仕掛けていた。

先制した後の前半の終わり方が課題となり、時間の使い方が甘く、前半を1—1で終えた。

後半も先に追加点を奪った。その後もチャンスを作り決定機もあったが、決めきれずに相手の逆転を許してしまった。ゲームの大局観については課題であったと考えるが、2日間の短い時間で選手は意欲的に取り組み、攻守にいいプレーを見せてくれた。



3日目 (AM)

2グループに分かれて紅白戦 (20分×2)

W-up 各グループでMP、パス&コントロール、ポゼッションなど (30分)
紅白戦 40分

3 GK

4名のGKが参加して、Tr.及びTr.マッチに臨んだ。

試合出場時間やGKのみでのトレーニングは短い時間であったが、FPと共にトレーニングする中でDFと連携してボールを奪う・ゴールを守る・攻撃に積極的に関わることを意識して取り組んだ。シュートストップに関しては、連続したセーブや鋭い反応からシュートを止める場面が多くあり、日頃の練習成果が出せていた。一方で、ゴール前が複雑な状況になると、ポジション修正が間に合わない、構えるタイミングが遅れるといった場面が見受けられた。ブレイクアウェイに関しては、迫力をもったブロッキングやペナルティエリア内を幅広く守る意識はあったが、相手ロングボールに対してスタートポジションが低く、繋げるボールをギリギリでクリアしなければいけなくなっていた。

クロスに関しては、コーナーキックのボールが止まっている状況からは積極的にチャレンジして良いポイントでプレーできていた。しかし、流れの中では、予測、ポジショニングに課題があった。攻撃面は、観る、サポート、パスの選択と日に日に向上が見受けられた。ミドルパス、キャッチした後のスローでの配球と広い視野を持ってトライできていたのは大変良かった。ロングキック、ボレーキックの質が高まるとより選択肢が広がって攻撃の起点として貢献していけると思う。

今後は、より攻守において、プレーの3局面、とりわけプレー前の「良い準備」の質を高めて、ハイスピード、ハイプレッシャーの中でも力を発揮することが課題である。

まとめ

2泊3日という短い期間で選手は大きな刺激を受けた。

初日の秋葉コーチのトレーニングは、サッカーの目的、原則を徹底し、選手の意識を高めた。選手もそれぞれの性格はあるが、全体的には意欲的で向上心があり、これまでの北海道の選手には珍しく、積極的な取り組み姿勢であった。

トレーニングは常にゴールを意識した攻守の攻防をテーマに、オフの選手がアクションを起こしてランニングすること、そして、その変化を見て別の選手が関わり連動した攻撃を意識した。守備は、ボールへのプレッシャーをかけ、オフの選手はカバーリングをするためにポジションをとり続け、コンパクトな守備を意識した。個人の理解力がありチームとして攻守に連動したプレーが多く出た。

今回のトレーニングキャンプを通して、選手が目に見えて変化したことは成果であり、来年の公式戦が今から楽しみになった。

最後に平日での開催にもかかわらず、指導に関わっていただいた北海道トレセンスタッフ、見学に来てくれた指導者、練習試合を受けてくれた札幌創成高校、北海道コンサドーレ札幌に感謝致します。また、選手を派遣していただいた各チーム指導者の皆様、そして多くのサポートをいただいていたこのトレセン事業が無事に終わりましたことに感謝致します。ありがとうございました。

